

何故、沖縄なのか、Because...



おきなわ F B 短信 (16)

(1分間で読めます。)

平成 21 年 3 月 9 日 (月)

先週の金曜日に沖縄公庫の 5 階会議室で行われたファミリービジネスシンポジウムはなかなか聞き応えのあるものであった。

最初のリウボウグループ比嘉正輝会長の沖縄における企業経営の視点からの挨拶に続き、沖縄を代表する若手経営者の現状認識と将来への展望が明確で興味深かった。

3 人の中で最も若いジーマ株式会社社長の儀間慶太氏の経営観は、問屋という地域密着型の事業という本業のせいもあって、最も堅実な印象を受けた。

まず、沖縄から外へ出ない。本部を沖縄に置いて儲けは全て沖縄へ再投資すると言いきった。儀間氏は創業 76 年の三代目であり、先代は社会福祉事業に多大の貢献がある。

社是は、商業を通じて地域社会に貢献する。お役に立ちます明日の貴方に!! であった。

金秀グループの呉屋守将会長は、創業者が徒手空拳で起業し、成功を収めたが、時には髪が白くなるほどの苦境を見たこと。成功と失敗を重ね、企業グループを形成したことから学んで、自分の代もベンチャー精神を忘れずに企業を改革し、不動の企業を確立するとともに、創業者同様、沖縄に恩返しをすることが目的と断言した。金秀グループの社訓は誠実、努力、奉仕である。

株式会社カヌチャベイリゾートの白石武博社長は、三代目である。沖縄の観光について、少年時代に、先代の薫陶を受け、沖縄観光を自分の事業としてとらえる。

沖縄観光は、一時的なものではなく長期的な循環で考える。例えば、修学旅行が成人してリゾートウエディングを沖縄で行う。生まれた子供と一緒にまた思い出の沖縄へ来る。その子供がまた沖縄を訪れる。

沖縄という島は日本だけでなく、中国やアジアや欧米の観光地である。

日本の人口 1 億 2 千万人で 500 万人の来訪がある沖縄に、将来世界から 1,000 万人の観光客があっても不思議はない。

白石グループの社是は、進取の精神、人材育成と活用、顧客第一主義、健全経営であった。

三人三様の中で、そろって結論は沖縄であった。

家を建てる時には、堅固な土台と良質な材料と誠実な仕事が必要ならぬ。沖縄を将来に向かって構築する時、若手企業家の明確な Because は心強い。